

第1B分科会 研究課題「教育課程に関する課題」

研究主題『地域の教育力を活用した「社会に開かれた教育課程」の実現』

～学校や地域の実情に応じたコミュニティ・スクール運営における教頭の役割～

延岡支会（小学校）

1 主題設定の理由

次世代を担う人材育成・持続可能な地域社会の実現を目指して、これまで以上に学校・家庭・地域が一体となった県民総ぐるみによる教育の推進が重要であると言われている。

学校運営協議会を形だけ設置するのではなく、どのような子どもに育てるか、目標を共有し、子どもたちの豊かな学びとなる、地域も元気になるというよりよい学校運営協議会をつくるには何が必要か検討する場も必要である。また、コミュニティ・スクールの形態は、学校や地域で一律に同じ運営ができるものではないので、各地域の実情に合った運営の方法が考えられる。

延岡市では、平成29年度から順次学校を指定しコミュニティ・スクールを導入しており、令和5年度から全小中学校において展開されることになる。コミュニティ・スクール推進のため、学校や地域の実情を踏まえながら、導入初期、導入中期など各段階に応じて、取組を順次進めていくことが必要である。「社会に開かれた教育課程」の実現を通して、予測困難な社会に求められる資質・能力を子どもたちに育むために、コミュニティ・スクールを活かした学校運営協議会は重要であると考えます。

そこで、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、学校や地域の実情に合ったコミュニティ・スクールの運営していくための教頭の役割について研究を深めることとした。

2 研究のねらい

学校や地域の実情に応じ、学校と地域が目的や目標を共有し、当事者意識をもってコミュニティ・スクールの運営をするには、教頭はどのように関わればよいのか明らかにする。

3 研究の概要と成果

(1) 研究の内容

- ① 効果的な学校運営協議会のあり方と教頭の役割
- ② 各校での取組の実際

(2) 研究の実際

- ① 効果的な学校運営協議会のあり方と教頭の役割
 - 学校の課題について地域と学校が共有し、よりよいアイデアを出し合っているような機能をもつ体制づくりを行う。
 - 共有した目標達成に向け「学校の役割」「家庭の役割」「地域社会の役割」を分担する議論の場を設定する。
 - 当事者意識をもった協議にするため、場の設定の工夫や研修の場を考えていく。

- 学校と地域が双方向の関係性で、連携、協働ができないか、学校運営協議会で協議していく必要がある。
- コミュニティ・スクールに関する理解を深め、学校全体で取り組むために教職員の共通理解の場を設ける。

② 各校での取組の実際

ア 北川小・中学校運営協議会

(令和3年度 導入)

- 小学校、中学校の教頭が連携して学校運営協議会を運営している。令和3年度は小学校、令和4年度は中学校が事務局である。
- 小・中学校の学校教育目標
 - ・ 進んで学び心豊かにたくましくひとりだちできる児童生徒の育成
- 令和3年度学校運営協議会の運営

期日	内容
1回 7月 6日	○市教育委員会から依頼状交付 ○学校運営協議会概要説明 ○学校経営方針説明 ○授業参観（小学校） ○学校評価観点説明
2回 11月 30日	○授業参観・総合的な学習の時間での学び鑑賞（中学校） ○熟議「ワークショップ～北川の10年後を考える～」 ○来年度の教育課程編成に向けて
3回 2月 24日	○学校関係者評価 ○学校運営に関する協議 ○次年度の方針

- 第1回学校運営協議会
 - ・ 市教育委員会から依頼状交付、概要説明があったことで、改めて、委員になられた方に委員としての意識をもっていただけだ。
 - ・ 学校経営方針、協議会の運営方針の説明を通して、学校の教育目標を理解していただいた。地域での子どもたちの様子を教えていただいたり、学校での子どもたちの様子を見ていただいたりしたことで、お互いに連携して子どもたちを育てていこうとする気持ちを確認することができた。
- 第2回学校運営協議会
 - ・ 『北川の10年後を考える』というテーマで熟議を行った。熟議を通して、目指す子どもの姿、目指す地域の姿を共有することができた。そして、今すぐ実施で

きることや来年度実施できること等を協議することができた。

- 令和4年度の取組
 - ・ 第1回学校運営協議会では、令和3年度の学校運営協議会で話題となった地域のクリーン作戦への参加について協議した。中学生が主体的に参加するという地域への貢献が見られた。

第2回学校運営協議会では、今年度の取組「ふるさと学習の推進」「学校と家庭・地域とが双方向に関わる取組」「家庭や地域への発信の工夫」「学校を知る機会や場の設定」について報告した。報告を受けて、運営協議会委員より意見や助言をいただいた。

今後、学校・家庭・地域との意見交換の場の設定を予定している。また、6年生の総合的な学習の時間でまとめる「北川のよさ」についての発表会に地域の方を招待する計画をしている。

イ 旭小学校運営協議会（令和3年度 導入）

- 令和3年度学校運営協議会の運営

	主な内容
1回	○学校運営協議会委員の委嘱 ○校長挨拶
7月3日	○学校運営協議会会長・副会長選出 ○学校経営方針等説明と承認 ○年間計画 ○情報交換
フリートーク	○旭小学校アクションプラン策定に向けて
2回 11月27日	○授業参観 ○第2図書室参観 ○アクションプランの取組状況の確認

- 第1回学校運営協議会
 - ・ 目的は、「保護者及び地域住民等が学校の運営への参画の促進、また連携強化を進めることにより、学校と保護者及び地域住民等の相互の信頼を深め、一体となって学校運営の改善及び児童の健全育成に取り組む。」である。

フリートークには、学校運営協議会委員・校区内区長・PTA役員・学校職員が参加した。10名ほどのグループに分かれ、旭小学校アクションプラン策定について協議した。

- 学校運営協議会事務局会
 - ・ 事務局でアクションプランの確認、学校運営協議会委員への報告を行った。アクションプランの3つの柱「あいさつができる子ども」「読書活動の推進」「メディアコントロール」について、学校、家庭、地域がそれぞれ実践していくことをまとめた。



- 第2回学校運営協議会
 - ・ 児童の学校での様子や本校の教育活動を知っていただくために、授業参観をしていただいた。また、新たに整備した第2図書室を知っていただく場を設けた。地域と一体となった学校づくりを目指そうとする意識を高めた。
 - ・ アクションプランの取組状況の確認を行った。
- 令和4年度の取組
 - ・ 第1回学校運営協議会において、令和3年度に策定したアクションプランの3つの柱について熟議を行い、学校・家庭・地域で更に充実した取組を実践するようになった。

ウ 令和4年度に導入した学校の取組

- 名水小学校では、令和3年度まで、学期1回「ふれあいネットワーク」を開催してきた。学校評議委員、地区長、PTA会長で構成されていた。それぞれの立場で子ども達のためにできることは何かについて協議を進めたり、学校に協力していただいたりしてきた。既存の組織を生かして学校運営協議会委員の構成メンバーとし、令和4年度の導入に向けて準備した。

4 成果と課題

- 各学校での取組状況を伝え合うことで、コミュニティ・スクール導入初期にどのような学校運営協議会を計画し、充実させていくかについて教頭がリードしながら共有することができた。
- 学校運営協議会で、学校と地域が話し合いをする場を設定したことで、共有する目標達成に向け、学校・家庭・地域それぞれの役割を分担する議論の場となり、当事者意識を高め合うことができた。
- コミュニティ・スクールの仕組みの意義や良さ、学校運営協議会での取組状況などを学校職員、地域、家庭に周知し、推進を図っていくとともに、子どもを中心に、学校、家庭、地域が関わる学校づくり、地域づくりを目指していくために、学校運営協議会で何を協議するのか考えていく必要がある。
- 学校の実情によっては、学校運営協議会の開催に向けての調整、準備、会の進行、まとめなどが教頭の業務になっており負担が大きい。

